

【令和3年度 授業改善推進プラン】

板橋区立富士見台小学校

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲的に取り組める児童が多い。特に、校外へ出かけたり、動植物や地域と関わったりなどの体験的活動に児童が進んで取り組んでいる。 ・生き物・自然に対する興味・関心が強いが、実際に動植物等に触れ合う機会は少ないと思われる。学校では、ウサギと鯉を飼育しているが、頻繁に触れ合っている児童は一部である。 ・核家族化が進み、祖父母や地域との関わりが希薄になってきている。手伝い等を自宅で経験したことの少ない児童が多い。保護者に呼びかけることで協力は得られる。 ・分かったことや気付いたことなどを絵や文で表現したり、発表したりする力やかかる時間の個人差が大きい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的・計画的に動植物に関わる機会（時間）を増やす工夫をする必要がある。 ・校内での活動が中心になっているので、校外での活動を取り入れ、家庭や地域の様々な人と関わりをより多くもてるようにする必要がある。 ・相手意識をしっかりともち、自分の思いを分かりやすく伝えるための表現力を向上させる指導法を工夫する必要がある。 ・1年生で学んだことを2年生で生かすことができるような授業を行う。 ・ただ体験をするだけで終わらせるのではなく、めあてを明確にして、活動の前に活動について考え、振り返りを書く時間を十分設ける。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>◇協働学習の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域の協力を得ながら、様々な動植物と関わる機会を作る。 ・他学年との関わりを増やすことで、自分の成長に気付かせる。具体的には、1・2年生での合同活動を充実させる。 <p>◇指導と評価と支援の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が互いの気付きを交流するような活動を授業に取り入れる。具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせ、見つける、比べる、例えるなどの多様な学習活動を工夫する。 ・児童が友達の考えを最後までしっかり聞くこと・分かりやすく伝えることができるように、発表の機会を設けて、繰り返し授業のルールを徹底を行う。また、しっかり聞くことにはどんなメリットがあるのかを考えさせる。（伝える） ・気付きを観察カードに書かせる際に、観点（長さ、重さ、比喻、匂い、数、感じたこと等）を与える。 ・自分の考えや気付いたことを、身近な人に伝える活動を取り入れる。その際、話型を示すなど分かりやすい伝え方のポイントを示す。また、聞き手に質問をさせ、分かったことを記入させる等、聞き手の意識を高める工夫も行う。 ・一人一人の学びの道筋を把握し、学習の状況や場に応じた指導を行う。

